

神の臨在の中で

神と一緒に過ごす時間



画像：ImagineGolf via iStock
レイアウトデザイン：Akwilla Saras

聖書は特に記載のない場合は新改訳2017、
その他の場合は新共同訳聖書、リビングバイブルを引用

新改訳2017：©2017新日本聖書刊行会

新共同訳：©共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation
©日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987,1988

リビングバイブル：Scripture quotations taken from the Japanese
Contemporary Bible Copyright©1978, 2016 by Biblica, Inc.®
Used by permission. All rights reserved worldwide.

翻訳：田井淳子

改訳・ローカライズ：山田風音

編集・校正：有澤優子・ニコルス明子

発行所：有限会社デイリーブレッド

住所：大阪市中央区玉造 2-26-47 大阪クリスチャンセンター内

Website：japanese-odb.org • Email: japan@odbm.org

転載および転記には許可が必要です。

この冊子は正統なキリスト教の教理に基づいて制作されました。エホバの証人、末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教）、世界平和統一家庭連合（統一教会）、全能神教会などの教理とは大きく異なることをご承知ください。（弊社の信仰告白は公式サイトでご覧いただけます。）

原作：“In His Presence” by Dennis Fisher

© 2026 Our Daily Bread Ministries, Grand Rapids, Michigan

All rights reserved.

2026年4月10日発行

Japanese DS In His Presence



もくじ

神の臨在の中で 神と一緒に過ごす時間

問題.....	6
準備.....	12
訓練.....	17
報酬	22

神の臨在の中で

神と一緒に過ごす時間

デニス・フィッシャー

「祈り」の生活は充実している?」と、父は息子に尋ねました。彼は、教会学校にも礼拝にも参加している14歳の賢い男子です。ところが、彼は肩をすくめて「そんなに祈ってはいないよ」と答えました。父は心配して「どうして?」と尋ねました。すると息子は、「今、困っていることは、あまりないんだ」と答えました。

このティーンエイジャーの正直な応答は、実は、多くの大人が認めたくない事実ではないでしょうか。多くの大人のクリスチャンも、困ったことがなければ祈りません。

神と一緒に過ごす時間を取れないというのは、多くの人に共通の悩みです。「デイリーブレッド」誌の寄稿者デニス・フィッシャーはこの冊子の中で、聖書を読み、祈り、人に仕えようと努力する人たちのために、現実的な手助けを提供してくれます。

デイリーブレッド・ミニストリーズ

※公式ホームページでは朗読版をお聞きいただけます。

ぜひご利用ください。

(旧版に基づくため、一部表現等が異なります。

ご了承ください。)





第一章

問題

神は、男と女を創られた後、そよ風の吹く園の中を歩き回られたと、聖書は語ります（創世記 3:8）。宇宙の創造者は、御簾（みす）の内や天使の護衛の元に身を隠したりはなさらず、むしろ、人と交流することを願われました。

そよ風の吹く園でアダムとエバとの交わりを楽しまれた神が、今日、私たちとも交わろうと言われます。デボーションとは、そういうことです。私たちは、神の臨在や神の安心を体験し、神からアドバイスをいただくことができます。

私たちは有意義なデボーションをしたいと願いながらも、それは難しいと感じています。¹そして、すべきことをしていないと罪意識を感じているかもしれません。しかし、霊性は一週間に何回デボーションしたかで決まる、と考えるのは間違いです。デボーションは、予定をこなしたか否かではなく、心の問題です。

▶ **デボーションとは**、神と会話するための時間です。大切な人とのデートのためにあらかじめ予定を空けておくのに似ています。毎日時間を決めて祈り、みことばを開き、黙想するのが一般的です。「静思の時」とも呼ばれます。

大学2年生の頃、私は自己管理ができませんでした。あれやこれやに時間を取られて、課題を期限までに提出できないし、試験勉強に集中することもできません。時間のやりくりがつかず、できないまま放っておくこともありました。ついには、きちんとできないだけでなく、どうすればよいのか、予定を立てることさえできなくなっていました。

ある日、思い切って教授に相談しました。すると、その日の優先順位を決めなさいと言われました。私は、彼の言葉に沿って考える中で、最優先は神と過ごす時間だと思いました。何はともあれ、毎日、このことだけはやっておきたいと思いました。それならば、一日の始めにやろう。そうすれば、このことだけは必ずできるだろうと思いました。

しかし次の日の朝、前日の勢いはありませんでした。デボーションは、大きな努力が必要な割に報いが小さいように思われました。要するに、やる気が起きなかったのです。

私は、神に告白しました。「僕の心は冷たくて、あなたと一緒に過ごす気分になれません」。そして、そんな自分を赦してくださっていることを感謝しました。私は、自分のやる気になれないその気分を神に取ってもらおうと決めました。そして、無気力でぐずぐずした自分を明け渡しますから、そ

の代わりに神の活力をくださいと祈りました。私は、もう一度、その日の聖書箇所を読みました。そして、「私を内側から変えてください。また、今日の勉強について、ベストを尽くすことができるように助けてください」と祈りました。

その朝、教室に向かう足取りは軽やかでした。授業にも集中でき、何よりも、以前はできなかった「自分を律する」ということができました。その学期は、成績も上がりました。神との約束の時間を守れるようにと祈り続けると、神は祈りに応えてくださり、必要な力が与えられました。

預言者イザヤは、主を待ち望む者は新しく力を得ると語りましたが（イザヤ 40:31）、この約束は、古代イスラエル人だけでなく、今日の私たちに対する約束でもあります。ここで「新しく」と訳されているヘブル語の単語は、「取り換える」とか「新鮮さを示す」とか「芽を出す」という意味です。「待ち望む」という姿勢は、受け身ではありません。人間の努力を神の力に取り換えるという、積極的な姿勢です。何らかの方法で自分の潜在能力を見いだして発揮させるとか、さらなる頑張りを絞り出す、というではありません。むしろ、神のエネルギーを求めなくてはなりません。私を強くしてくださいと求めるのです。



何らかの方法で自分の潜在能力を見いだして発揮させるとか、さらなる頑張りを絞り出す、というではありません。むしろ、神のエネルギーを求めなくてはなりません。私を強くしてくださいと求めるのです。

私たちの模範

神と過ごす時間について考えるとき、イエスを模範にするなら最高です。イエスは地上の生活の中で、ご自分に宿る神の力を用いることを抑制されました。イエスは完全に神なのに、天におられる父と、ご自分の内に生まれ、ご自分を通して働かれる聖霊とに依存されました。この依存は、イエスが天の父とふたりで過ごす時間をどれほど大切になさっていたかを見れば明らかです。福音書は、イエスが追いかける群衆から離れて寂しい場所に行き、天の父と交わっておられたことを記しています。*

* イエスが静かな場所に退いて祈られたことを記す聖書箇所:

マタイ26:36以降, マルコ1:35, 6:46, 14:32-39, ルカ5:16, 6:12, 9:18, 11:1, 22:41以降, ヨハネ18:1

マルコの福音書 1 章 32 節から 39 節は、そのような箇所のひとつです。「イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた」(マルコ 1:35)。ここをよく見て分かることは、主イエスにとってデボーションは、大きなインパクトを与える大切なものだったということです。前日の夜、イエスは多くの病人や悪霊につかれた人を癒されました。そして朝が来ると、積極的に出て行き、神と交わる時間を取られました。きっとこの時間に霊性を整えられたのでしょう。

私たちの妨げと神の導き

すると、シモンとその仲間たちがイエスの後を追って来て、彼を見つけ、「皆があなたを捜しています」と言った。イエスは彼らに言われた。「さあ、近くにある別の町や村へ行こう。わたしはここでも福音を伝えよう。そのために、わたしは出て来たのだから」(マルコ 1:36-38)

ここで「見つけ」と訳されている単語は、「追跡して捕まえる」という意味です。シモン（ペテロ）と仲間は、「今日の予定はこうです」と言わんばかりに、「みんなが捜しています」と伝えました。彼らはイエスのデボーションのじゃまをしたのに、何とも思わなかったのでしょうか。

イエスは冷たいと思われても平気でした。真のデボーションによって、周りの人に対して鈍感になるのでしょうか。いいえ、むしろ逆です。神と時間を過ごすことによって、イエスはより大きなミッションに向かおうとされ、「人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです」と言われました。目の前にいる人の必要だけに振り回されていては、世の人の救いという神のみこころをないがしろにしてしまいます。イエスの決心は神の御前に静まる時を通して固められていきました。

イエスが神と過ごす時間は、充実した交わりの時でした。イエスはそこで、ご自分の使命を果たす力と方向性を手にされました。もし、自分のデボーションからイエスと同じような結果を得ようと願うなら、イエスの模範に従い、聖霊に助け

ていただいて、神のみことばに自分を適応させなければなりません。自分のすべてを変えるために、聖書のみことばに感化されなくてはなりません。❏

❏ **祈りを通して**決心が固まっていた一例は、十字架にかかれる前夜のゲツセマネの園での祈りです。イエスは「わが父よ。わたしが飲まなければこの杯が過ぎ去らないのであれば、あなたのみこころがなりますように」と祈られました(マタイ26:42)。

もし、神とふたりで過ごす時間を、1日1回の霊的オアシス、もしくは、霊的日課だと考えるなら、信仰生活とその他の生活を分離させるという罠に陥ってしまうでしょう。このような間違いを犯してはいけません。神と過ごす時間は、私たちの命綱です。エデンの園の昔から今に至るまで、神はご自分の民の人生の同伴者でありたいと願っておられます。



第二章

準備

愛 し合っている人たちは、密度の濃い時間を共にしたいと願うものです。そして、そうするためには、愛に加えて自己管理が必要です。二人でいる時間を意識して作らなければなりません。

神と充実した時間を過ごしたいと思う人も、それと同様です。イエスは、ひとりになる時間を意図的に作られました。私たちも、それに倣うべきです。私たちは、時間が来たらデボーションをしようと考えて一日を始めますが、次々と用事に追われて、その日が終わってしまいます。しかし、神の臨在の真ん中に自分を置くならば、ものごとの見方が正されます。そして、デボーションを優先しようとするでしょう。

神との関係を深めるには、自己管理が必要です。使徒パウ



神の臨在の真ん中に自分を置くならば、ものごとの見方が正されます。

口は、コリント人への手紙第一の9章で運動選手を例に挙げて、自制について述べています。*

オリンピックを目指すアスリートは、トレーニングの妨げになるものを極力避けようとします。自分を律して厳しい練習をし、綿密に食事の管理もします。日々のデボーションについても同様です。神の力によって自分を訓練し、それを優先していくなら、驚くような成果が生まれます。

以下のヒントが役立つはずです。

❏ 競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。空を打つような拳闘もしません。むしろ、私は自分のからだを打ちたたいて服従させます。ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者にならないようにするためです。(1コリント 9:25-27)

現実的な目標を立てましょう。 文才に恵まれた学生がいました。しかし、彼は提出期限を守れません。なぜなら、良いものが書けないなら書かないと言うからです。しかし、この完全主義は彼の益にはならず、むしろ成績を悪くしました。私たちはデボーションに関して、この青年のようではないでしょうか。こうあるべきという姿にならないなら、やらない方が良いという考えです。

しかし、神と向き合う時間にとって大切なことは、完全か否かではなく、前進するかしないかです。不完全でも意識的

にする方が、完全にできないのでやらないよりずっとまします。万事が整うということは、めったにありません。そんなことを待っているなら、全くできないかもしれません。*

▶ **慌ただしさ**だけでなく、完全主義は、神と静かな時を過ごすことを妨害します。少しでもすることは、全然しないよりずっと良いのです。

場所を見つけましょう。 著書「神と人間との対話」の中でC.S. ルイスは、デボーションについて驚く提案をしています。彼のアドバイスは、程良い妨害があると集中できるというものです。彼は、静か過ぎると他のことを考え出すので、電車でデボーションをしているという人を紹介しています。そ



神と向き合う時間にとって大切なことは、完全か否かではなく、前進するかしないかです。

の人は電車の騒音など妨害が少しある方が、逆に集中力が高まるというのです。秘密の洞窟のような静かな場所などありません。各々が自分に適した場所を探さなければなりません。

決まった時間を決めて取っておきましょう。 多くの人が、朝一番にデボーションをするように勧めます。聖書を読むまでは、朝食は食べないと言った人もいました。それは、その人にとっては良かったでしょうが、人はそれぞれ違います。あなたの体質や職業、ライフスタイルによっては、午後のひと時や夜の方が適しているかもしれません。

聖書は、何時であっても神と過ごすように勧めます。ダビデは「朝にあなたの恵みを聞かせてください」と祈ります（詩篇 143:8）。しかし、「夕べに朝に また真昼に 私は嘆きうめく。すると 主は私の声を聞いてくださる」とも語ります（詩篇 55:17）。「私は 夜明けの見張りよりも先に目覚めあなたのみことばに思いを潜めます」とも述べています（詩篇 119:148）。¹ また、ダニエルは 1 日に 3 度祈りました（ダニエル 6:10）。詩篇 1 篇は、「主のおしえを喜びとし昼も夜もそのおしえを口ずさ」んでいる祝福された人について述べます（2 節）。

1 伝統的な教派だと朝、日中、夕方などと祈りの時間を決めているところもあります。これは、祈りの生活を築く訓練のひとつです。

神と過ごす時間をいつにするかは、あなた次第です。あなたに合わせてよいのです。一番大切なことは、毎日その時間を守り、聖書のみことばを通して神があなたに語り、あなたが祈りつつ主にお応えしていくということです。

何時何分と厳密に決めても、これこれの後というように緩やかに決めてもよいので、予定を立てましょう。ダイアリーに書き込むなり、スマホのスケジュール管理に入れるなりして、その時間を確保しましょう。

時間を短くして、着実に続けられるようにしましょう。 ピアノの先生は「週に 2 度、何時間も練習するより、毎日 15 分練習



する方が上達する」と言います。この原則は、デボーションにも当てはまります。「今日は予定がびっしりだから」とスキップして別の日に長い時間を取って穴埋めするより、毎日15分を必ず確保して着実に続ける方がお勧めです。無理のない短い時間で始めて、習慣がついてきたなら、時間を延ばしていくことも可能です。どれぐらいの時間を割くかを祈って決めたなら、スケジュール帳に書き込みましょう。

神と過ごす時間をいつにするかは、あなた次第です。あなたに合わせてよいのです。



第三章

訓練

自己管理さえすればデボーションができるわけではありません。人間関係はコミュニケーションを重ねることで深まります。その際、一方通行ではなく、相互に聴き、相互に語ることが大切です。

神が語られる。その昔、神は民に直接、話をされました。サムエル記第一 3 章 21 節は、「主はシロで主のことばによって、サムエルにご自分を現された」と語ります。「現された」と訳されたヘブル語の単語の意味は「おおいを取り除ける」とか「啓示する」です。創造主がご自身の考えや品性、また意志をしもべに開示されたのです。一方、今日では、神のコミュニケーションはおもに聖書を通して行われます。

私たちが聖書を読むときに、聖霊が私たちの心を教え導いてくださいます。

神のみことばの自習を実のあるものにするためには、聖霊の助けを得つつ、次のようなプロセスを踏んでいくとよいでしょう。

【受け取り、味わう】 まず、その文字通りの意味を把握します。みことばを、その文脈の中でとらえます。聖書のみことばが、当時の時代背景や文化の中で何と述べているかを把握します。

【今の自分と照らし合わせる】 次に、その意味することは何だろうと考えます。聖書は当時の読み手だけでなく、現代の私たちにも宛てられています。みことばには核となる霊的な真理があり、それは時代を超えます。そのみことばが今日の私たちには何を語っているかを考えましょう。

【主にお応えする】 最後に、それを自分の生き方にどう適用するかと考えます。聖書の中に見いだした原理原則に沿うような生き方を神に変えていただくよう決心するなら、聖霊は、私たちの考え方や会話の内容、人や物事に対する姿勢や態度などを変えてくださいます。「どう適用するか」とは、すなわち「このみことばを学んだ結果、自分はどう変わるべきか」という質問なのです。*

* 昔から実践されている**レクティオ・ディヴィナ**（ラテン語で『神聖な読書』という意味）という習慣は、聖書を読み理解する一助になるかもしれませんが、みことばをゆっくりと熟考しながら祈り、聖書のページを通して神の声を聞こうとするものです。

私たちは神に応答する。 あなたは、思いの丈を打ち明ける手紙を書いたことがありますか。もし、そういう手紙を送った相手から返事が来て、中を開けてみると、自分の書いたことには全く触れず、その人が願っていることや心配していることばかりが書かれていたら、どんな気持ちになるでしょう。



聖書は天の父からの愛の手紙です。聖書は、天の父の愛がどれほど深いかを示す物語です。それなのに、私たちは聖書を読んだ後に祈る場合でも、自分のことばかりを伝えようとします。神の手紙に応答するのではなく、自分の差し迫った必要に集中してしまいます。

「どう適用するか」とは、すなわち「このみことばを学んだ結果、自分はどうか変わるべきか」という質問なのです。

私たちは、どんな心配ごとでも、神に祈ることができます。しかし、忘れないでください。今、みことばから神の思いを知ったのなら、次はあなたがそれに応える番です。神の約束に感謝しましょう。神の教えを喜びましょう。聖霊に指摘されたことを悔い改めましょう。神の品性を発見して、大いに喜びましょう。その日のみことばの意味をより深く理解できるように祈りましょう。キリストの似姿へと近づくために、今日、何を換えられるか、知恵を求めましょう。

ダニエル書6章10節は、ダニエルがいつも「日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた」と述べています。彼は大変な状況に置かれていましたが、自分の願いを神に申し上げると、彼の祈りの時は感謝で満ちあふれました。私たちの祈りも同じように、神の品性や神のみわざを思って感謝に満ちあふれているべきです。

ノートをつける。デボーションの時に気付いたことをノートに記していくと、自分の傾向が分かります。ノートをつけていたからこそ気付いた信仰の前進もあります。以下のような、簡単なもので十分です。

デボーション・ノート

日付: _____

聖書箇所: _____

気付いたこと: _____

適用すること: _____

祈り: _____

ノートをつけると、学んだことが
思い出しやすくなりますし、生き生
きとしてきますから、デボーション
の時間に限らず一日中みことばを思
い巡らし、主に応え続けることがで
きます。

イエスは完全なお方だったのに、
常に神と共におられようとなさいまし
た。つまり、地上の生活を、すべて



**イエスは地上の生
活を、すべての人
間がそうあるべき
姿で送られまし
た。天の父に頼り
きって生きられた
のです。**

の人間がそうあるべき姿で送られました。イエスは、天の父に頼りきって生きられたのです。イエスの人生は、天の父に従いきった人生でした。私たちは、前述したイエスの「デポジション」の姿勢から洞察を得ることができます。また、神とともに過ごした時間のインパクトを一日中失わない方法も、イエスから学ぶことができます。



第四章

報酬

デボーションをしたのに、一日がうまくいかなかったと感じたことはありますか。聖書を読んで祈るのに費やした時間と労力は、自分の問題に何の役割も果たさなかった。デボーションはデボーション、現実の出来事は現実の出来事……。もしそうなら、それは「隔離」です。すなわち、霊的な生活と普段の生活を住み分けているのです。しかし、それは神のみこころではありません。神は、私たちと共に歩んで、生きることにも格闘している私たちを助けていと願っておられます。¹⁾

¹⁾ 強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主ご自身があなたとともに進まれるからだ。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。(申命記31:6)

ルカの福音書 24 章 13 節から 32 節には、エマオに向かっ

ていた二人の弟子にイエスが現れてくださった時のことが記されています。ここには、神と一日中会話することに関連する洞察が示されています。

ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン余り離れた、エマオという村に向かっていました。彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。(ルカ 24:13-16)

この日、エルサレムからエマオに向かっていた二人については、ほとんど何も分かっていません。しかし聖書は、彼らの心は葛藤していたと示しています。彼らは落胆し、失望していました。そして、「話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められ」ました(15節)。よみがえられたイエスが、旅の道連れになってくださいました。何と素晴らしいことでしょう。イエスは、私たちとも一緒に歩んでくださいます。人生は旅路です。そしてイエスは、私たちの旅の道連れになって、山あり谷ありの道を一緒に歩んでくださいます。たまに休憩所で会話するだけでなく、それ以上のことを求めておられます。

でこぼこを知る。人生のチャレンジのひとつは、挫折や矛盾と向き合うことです。私たちの思いが乱れるのは、私たちの

視野に限りがあるからです。私たちは一部分しか見ることができません。エマオに向かっていた二人の弟子の問題は、まさにそうでした。たった数日の間にいろいろなことがあり過ぎて、しかもどれも予想だにしていなかった出来事ばかりで、頭も心も追いつきません。イエスは二人の葛藤をご覧になり、声をかけられました。

イエスは彼らに言われた。「歩きながら語り合っているその話は何のことですか。」すると、二人は暗い顔をして立ち止まった。そして、その一人、クレオパという人がイエスに答えた。「エルサレムに滞在しているながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」イエスが「どんなことですか」と言われると、二人は答えた。「ナザレ人イエス様のことです。この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。実際、そればかりではありません。そのことがあってから三日目になりますが、仲間の



人生のチャレンジのひとは、挫折や矛盾と向き合うことです。

女たちの何人かが、私たちに驚かせました。彼女たちは朝早く墓に行きましたが、イエス様のからだが見当たらず、戻って来ました。そして、自分たちは御使いたちの幻を見た、彼らはイエス様が生きておられると告げた、と言うのです。それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、まさしく彼女たちの言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした」(ルカ 24:17-24)

イエスの質問に答えて、二人はなぜそんなに思い乱れているのかを説明しました。彼らの話を要約すると、「ナザレ人イエスはイスラエルを贖(あがな)うメシヤだと期待していたのに、彼は十字架につけられてしまい、自分たちを含む多くの人の希望が失せてしまった。その上、イエスの墓は今は空だという。また、仲間の何人かは天使を見たと言っている」というものです。

この二人は、ほんの数日前には期待で胸を膨らませて、イエスとともに歩んでいたのです。それなのに、すべての夢が断たれてしまいました。彼らは世界、特に最近の出来事の、ほんの断片だけを見ていたのです。人間は限界のある生き物で、ど



彼らは世界、特に最近の出来事の、ほんの断片だけを見ていたのです。人間は限界のある生き物で、どんな状況であっても、その一部分しか見ることができません。

んな状況であっても、その一部分しか見ることができません。▶

▶ 神は無限なので私たちには十分に理解できませんが、そのことが神を求め妨げになってはなりません。私たちが神のすべてを分かることは決して無いでしょう。しかし、それでも神を知ることはできます。神は私たちとの深い関わりを望んでおられます。

この二人は、自分が知っていると思っていたことに実体験が一致しないので、葛藤していました。私たちも同じような体験をします。

私たちの限りある力では全体像を見渡せないの、私たちの信じていることと、つじつまの合わないように見えることが起こるかもしれません。自分が期待したように祈りが応えられなかったり、不幸としか言えないようなことが起こったりしても、自分の理解力には限界がある、ということを忘れてはいけません。

イエスは私たちに、心配ごとを話してほしいと思っておられます。私たちの話（些細なことでも、大きなことでも）にいつでも耳を傾けてくださいます。キリストとキリスト者との間には特別な絆があるので、どんな状況にいたとしても、祈り心で



私たちの信じていることと、つじつまの合わないように見えることが起こるかもしれません。自分が期待したように祈りが応えられなかったり、不幸としか言えないようなことが起こったりしても、自分の理解力には限界がある、ということを忘れてはいけません。

思いの丈を打ち明けることができます。

イエスに説明してもらおう。この二人の望みは、完全に断たれたように見えましたから、さぞかし絶望していたことでしょう。しかし、イエスが彼らの体験を聖書に照らされると、新しいことが見えてきました。

そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったではありませんか。」それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。
(ルカ 24:25-27)

「ああ、愚かな人たち」などというのは、ずいぶん失礼に聞こえますが、原語のギリシャ語を直訳すると「知識の無い人たち」となります。^❶

この二人は物語の全容を知らなかったのです。

❶ この25節で「愚か」と翻訳されている単語は、ガラテヤ人への手紙3章1節と3節で、使徒パウロが用いている単語と同じです。パウロは、ガラテヤ人の愚かさは知識と行動の両面だと述べます。つまり、「愚か」とは、無知というだけではなく、知っているのにそれに基づいて行動しないことだと語ります。



イエスは二人の問題を解決する唯一のもの、すなわち追加の情報を提供されました。偉大な教師であるイエスは聖書のみことばから、ここ数日の出来事は驚くに値しないことを教えてくださいました。救い主は栄光を受ける前に苦しまなければならなかったと、みことばから気付かせてくださいました。

私たちがここで学ぶべきことは「自分にも失望し、苦悩するときもあるかもしれない。しかしそれは、自分には広い視野で見るための知識がないからだ」ということです。主はみこころの時に、すべてを明らかにしてくださいますが、それは、キリストの再臨の時かもしれません。状況にかかわらず、教えやすい柔軟な生徒であること、また、教師であるキリストから毎日教えを請うことによって、私たちの信仰や知性は育っていきます。

神の御業を待つ。よみがえられたキリストと有意義な交わりをするならば、このお方ともっと一緒にいたいと思います。この二人もそうでした。目的地に着いた後も、イエスと離れたくないと強く思いました。

彼らは目的の村の近くに来たが、イエスはもっと先まで行きそうな様子であった。彼らが、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、

教えやすい柔軟な生徒であること、また、教師であるキリストから毎日教えを請うことによって、私たちの信仰や知性は育っていきます。

日もすでに傾いています」と言って強く勧めたので、イエスは彼らとともに泊まるため、中に入られた。(ルカ 24:28-29)

彼らは歩きながらイエスに教えてもらいました。しかし、もっと聞きたいと思って、「一緒にお泊まりください」と無理に願いました。

イエスは彼らと夕食をともにされました。そして、神の臨在が、超自然的な御業を可能にしました。日常的な普通のことによりイエスを招き入れると、どんなところにも、神の御業を成す道が開かれます。✦

✦ 神は、私たちの日常生活に関心を寄せておられます。このことは、イエスが弟子たちに教えてくださった祈りから明らかです。祈りを教えてくださいと弟子たちに言われて、イエスは天の御国についてだけでなく、日々の食べ物や人を赦すことなど、日常生活に関わることも祈るように教えられました。(マタイ6:8-15、ルカ11:1-4)

そして彼らと食卓に着くと、イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された。すると彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は話し合った。「道々お話しくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくださいの間、私たちの心は内で燃えていたではないか」(ルカ 24:30-32)

イエスは食卓に着き、パンを取って祝福し、裂いて彼らに渡されました。そこで、彼らの目が開かれて、イエスだと分かりました。それまでは「目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった」のです（16節）。しかし、今や誰であるか分かりました。

急にイエスだと分かり、そしてすぐに姿が見えなくなったので、二人はびっくりしたかもしれません。しかし、彼らはイエスとともに歩き、聖書を教えていただいた時のことを思い出しました。イエスが神の洞察力と神の権威をもって、聖書を解き明かされた時、二人の心は燃えていました。

「彼らの目が開かれ」（31節）の「開く」と、「聖書を説き明かして下さる」（32節）の「説き明かす」には同じギリシャ語の単語が用いられています。イエスは聖書の真理を彼らの前に「開いて」くださったのです。

聖書の中にキリストを見て、自分自身の体験の中にもキリストを見るという体験は、デボーションという限定された時間にだけでなく、一日を通して起こるべきことです。

人間関係を育てるのは容易ではありません。努力、自己管理、コミュニケーション、忍耐、信頼、時間など、大変さが伴います。神との関係を育てることも同じです。この冊子は、



聖書の中にキリストを見て、自分自身の体験の中にもキリストを見るという体験は、デボーションという限定された時間にだけでなく、一日を通して起こるべきことです。

あなたを励ますために書かれました。頑張っ、て、計画を立てて、神と一緒に前進しようとする方の助けとなれば幸いです。聖書を読み、祈る時間を作りましょう。このようにして、神とともに時間を過ごしましょう。神と話し合ったことを生活のすべての分野に取り入れましょう。神の御声に耳を澄ましましょう。そして、神とたびたび話し合ひましょう。そうするなら、あなたの信仰は成長し深くなり、家庭、学校、職場、地域社会や教会など、様々なところで試行錯誤しつつ自分の言動を変え、人々に仕え、神のみこころに応える者となります。きっと、努力した甲斐は十分にあったと思えることでしょう。